## 卒業研究発表会 発表の仕方にも工夫

Graduation research

情報コミュニケーション学科2年生による卒業研究発表会が、2月8日から10日までの3日間、芸短大大講義室で行なわれた。

各研究室ごとに1～4人に分かれて、2年間の研究結果を発表。全員がパワーポイントを駆使したプレゼンテーションを行ない、その内容もアンケート調査を基に集計・分析を加えたものや、2年間の実践報告を卒業研究に仕上げたもの、さらに動画を用いたりして、わかりやすい形で進められた。

研究発表の内容は「韓国・木浦におけるジャパンタウンの形成」「ラジオによる定期番組制作」「ネットオークションに関する研究」「猿回し～古典演目が持つ童話性の未来～」「美容整形に対する女子学生の意識変化」「父親に対する娘の嫌悪感」「ランチメイト症候群の背景」「若者に伝わりやすい政治」「歴女について」「歩数計と健康管理」など、学科の特性を発揮した多様かつ興味深いものが目立った。

発表後の質問タイムでは、多くの1年生から挙手があり、2年生がたじたじとなる突っ込んだ質問もあった。最前列で発表を聞いていた今春入学予定の高校生3人は、「とても楽しくて、勉強になりました」と話していた。

written by 森本絵美莉（1年）

## 府内五番街商店街 写真コンテスト

Photography contest

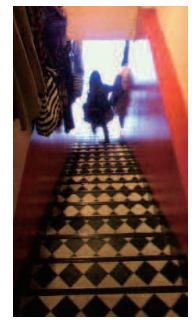
「芸短フェスタ2009」の一環として行った「府内５番街商店街写真コンテスト」の入賞者３人と奨励賞10人が決まった。

毎日新聞大分支局が昨年９月末から、行ってきた寄付講座「地域社会とマスメディア」受講者を中心に、75人から応募があった。入賞者は以下の通り。

□芸短フェスタ賞 ： 金治七海（美術科）
□毎日新聞社賞 ： 佐藤友美（国際文化学科）
□府内５番街商店街振興組合賞 ： 赤池すずか（情報コミュニケーション学科）

▲芸短フェスタ賞

▲府内５番街商店街振興組合賞


▲毎日新聞社賞

## 映画感想文コンクール 結果発表

Result announcement

「芸短フェスタ2009」の開催期間中となる2009年10月1日から12月31日までの3か月間に、大分県内の映画館で公開された全ての映画（DVD、ビデオは除く）を対象とした感想文コンクールを高校生以上を対象に開催しました。

12月末までの応募に対し、本学の学生や一般市民から応募があり、下記の通り、シネマ５賞、大分合同新聞社賞、奨励賞が決まりました。敬称略。

**芸短フェスタ賞**
該当なし

**シネマ5賞**
◎ 松尾 美幸〈情報コミュニケーション学科２年〉

**大分合同新聞社賞**
◎ ペンネーム：鳥 孝行〈一般応募（臼杵市）〉

**奨励賞**
◎ 中村 早希〈情報コミュニケーション学科１年〉
◎ 瀧本 園絵〈情報コミュニケーション学科１年〉
◎ 梶原 伸哉〈一般応募（大分市）〉
◎ 末岡 節子〈一般応募（大分市）〉
◎ 新上 ゆみ〈一般応募（大分市）〉

# Event information

## 6月19日（土）開催します！ 2010府内 学生Ecoフェスタ

6月19日（土）、大分市中心部の府内５番街商店街などで、学生が情報発信する「2010府内☆学生Ecoフェスタ」（仮称）が開催されることになった。

6月は世界的な「環境月間」。3つのキーワード「Eco／学生／地域」をもとに、大分市環境部のキャンドルナイト計画とタイアップする大規模イベントだ。

「地球を感じよう！Feel the Earth！」をスローガンに掲げ、同日午前10時から午後9時まで（雨天の場合は翌日に順延）行う終日行事。

府内地区の赤レンガ館、フォーク村・十三夜、ライフパル、ハニカムカフェ、アクア広場などを主会場に、「学生たちは提言する！府内５番街活性化シンポジウム」「芸短大生による写真展・音楽会」「ミニＦＭ放送局」「電気自動車の展示」「AED講習会」「キャンドルナイトコンサート」「日本一小さな花火大会」「府内探検隊」など、大小30前後のイベントが計画されている。

2月初め、実行委員会準備会（委員長は芸短大1年・赤池すずか）を立ち上げ、大分市環境部や５番街商店街、大分合同新聞などとの協議を進めている。

written by 赤池 すずか（1年）

「府内学生Ecoフェスタ」ホームページは　http://ameblo.jp/5bangai

## 芸短創作劇 アマデウス～モーツアルトの生涯～

大分市コンパルホールで12月20日、芸短大生たちによる創作劇「アマデウス～モーツアルトの生涯～」が上演された。音楽家モーツアルトの30数年の短い生涯を描いた作品である。

創作劇の上演は今回で3年目。「嵐が丘」「ロミオとジュリエット」に続いて、今年は本格的な天才モーツアルトの一生を描く音楽劇に挑んだ。父親の重圧、周囲の期待、嫉妬の眼によって、彼は次第に追い込まれていく。

基本的に出演者は1人1役だが、主人公のモーツアルト役は、場面に応じて3人の学生が演じる例年の趣向を踏襲。幼少時代、20代、30代の3役を演じ分けた。最後に3人が同時出演する場面では、真っ赤なライトに照らされながら崩れ落ちる「モーツアルトたち」が、とても印象的だった。

共通科目「メディア・コミュニケーションII」を受講している学生たちが制作した。俳優、制作、照明、音楽、広報、メイクなどさまざまな役割を担当した。

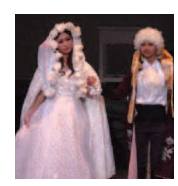
劇が終わり、幕がゆっくり下りていく。この劇に関わった全学生らが、上演の成功に歓声を上げる。学生の力でこの演劇は上演されたことを、改めて実感する。

来年はどんな劇を見せてくれるのだろうか。

written by 中村 早希（1年）

### 創作劇『アマデウス』に参加して

◆難しかったが、納得してくれるメイクができてよかった。（H）◆皆で作り上げた衣装は最高だった。（M）◆生地から集めて組み合わせたりするのが大変だった。（K）◆声に合わせて動くのは思っていたよりも難しかった。（N）◆人脈が広がった気がする。（O）◆初めてのことに挑戦できたて楽しかった。（K）◆感情を込めてマイクに乗せるのは思っていた以上に難しかった。滅多にできない経験をすることができ嬉しかった。（K）◆自分の声が舞台で流れてきたときにとても感動を覚えた。（N）◆元々演劇が好きだったのもあり、スムーズに役に入れた。（S）◆本番も緊張の中、最高の演技が出来た。（S）◆大変だった分、終わったあとの達成感はとてもあった。（M）◆門はペットボトルでつくられていて、穴を開けて糸を通したり、ボンドで繋げたりと簡単そうでなかなか難しい作業だった。（T）◆「僕と結婚してください」。私の初のプロポーズ体験。幼いモーツアルトの純粋さを演じられているといいな。（F）



地域社会特講（2009,12.22）

## 映画「ぼくはうみがみたくなりました」上映会

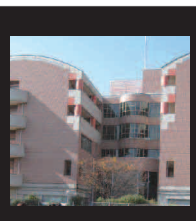
### 明るく爽やかな気持ちにさせてくれる

12月22日の地域社会特講では、映画「ぼくはうみがみたくなりました」の上映会と、映画の原作・脚本を手掛けられた山下久仁明さんによる講演会が行われた。

自閉症の青年・淳一が自分を見失いかけていた看護学生の明日美や老夫婦と出会い、三浦半島の海に向かう旅の道中で心を通わせていくストーリー。自閉症によるパニックや、健常者から向けられる冷たい視線などがリアルに描写されていたが、決して暗くならない、むしろ、明るく爽やかな気持ちにさせてくれる内容が印象的だった。

山下さんは自身の長男が自閉症と判明した後、福祉施設フリースペース「つくしんぼ」を開設し、代表を務めている。

# Voice



大分県立芸術文化短期大学　サービスラーニング公式新聞
〒870-0833　大分市上野丘東1番11号　大分県立芸術文化短期大学
tel.097-545-0542（代表）／fax.097-545-0543